

経営比較分析表

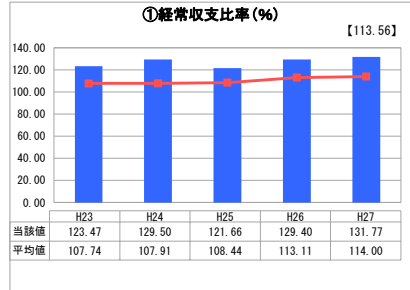
岐阜県 各務原市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A3
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	82.78	98.95	2,386

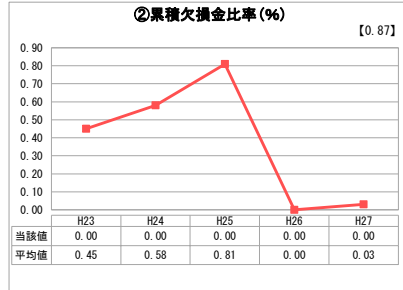
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
148,409	87.81	1,690.12
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
146,887	87.81	1,672.78

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成27年度全国平均

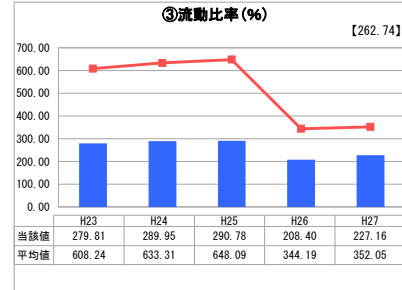
1. 経営の健全性・効率性



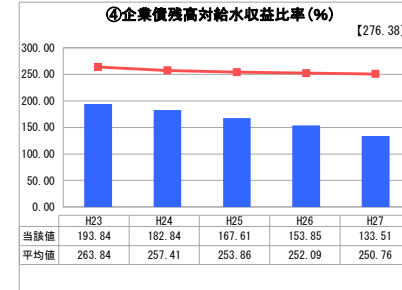
「経常損益」



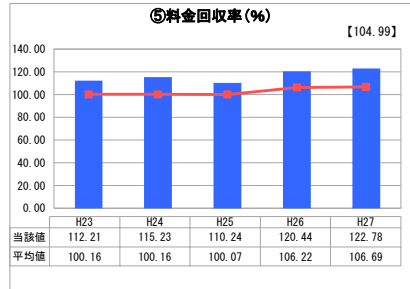
「累積欠損」



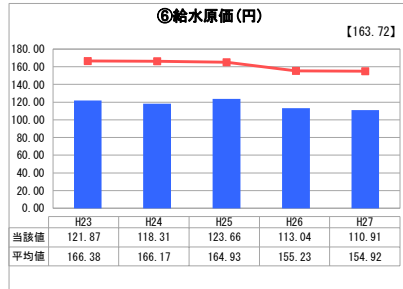
「支払能力」



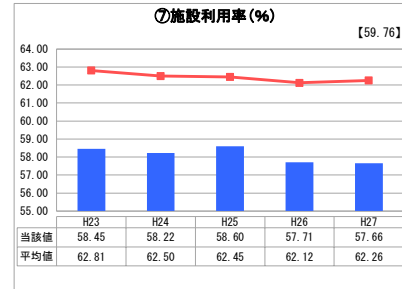
「債務残高」



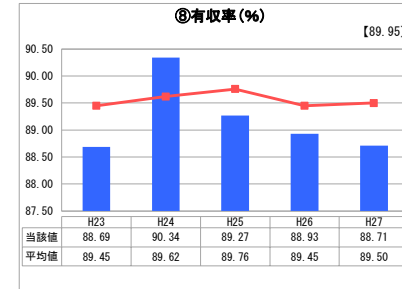
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

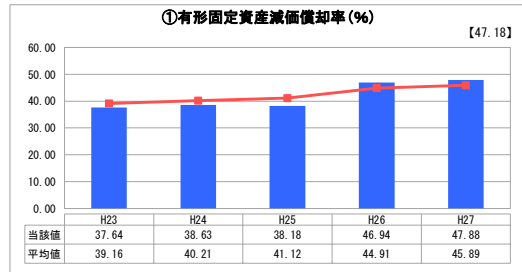


「施設の効率性」

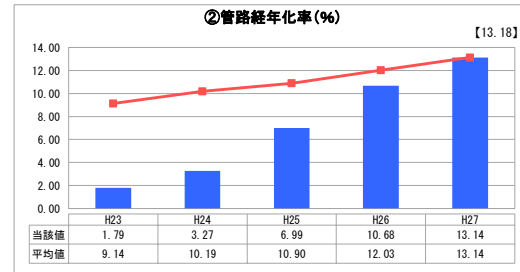


「供給した配水量の効率性」

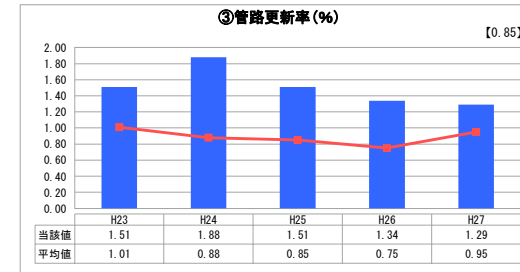
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

人口減少等を背景とした給水収益の減収を鑑み、当市では費用抑制的に予算策定を行っていることから、給水原価は類似団体平均値対比で抑制された水準を保っています。また供給単価対比で給水原価を抑制していることから料金回収率は100%を上回る水準で推移しています。

本業は効率的な経営により安定的な黒字経営が維持され、資本的収支の不足に対しても十分な補填財源が確保されていることから企業債は返済が進み、企業債残高対給水収益比率は年々低下しています。施設利用率はおおむね前年並みとなりました。季節毎に必要な変動があるため、余裕を持った施設の稼働を行っています。

今後も人口減少傾向は継続すると見込まれ、引き続き費用の抑制を図りながら安定的な収益の確保と健全な財務の維持につとめます。

2. 老朽化の状況について

管路の取得から年数が経過し、法定耐用年数を超過する管路も増加していることから、有形固定資産減価償却率や管路経年率は上昇しております。

また新層直下型地震への備えから耐震化に関する工事を優先して実施しており、数値上の管路更新率には大きな改善が現れておりませんが、アセットマネジメントによる更新需要の検討結果に基づき、計画的な管路の耐久性改善を図っています。

全体総括

水道事業に関する収益性や財務の健全性は良好であり、安定的な経営を維持しております。今後は人口動態やライフスタイルの変化により給水収益等の減少が予想されており、引き続き効率的な経営の維持に努めます。

管路や施設については老朽化が進む中で適正な更新投資を実施しています。耐震化に関する取り組みは、平成31年度末の管路耐震化率33.4%、基幹管路の耐震化適合率90.8%、平成32年度末の浄水施設耐震化率100%、配水池耐震化率100%を目標に進めています。引き続き計画に沿った更新投資を行い、安定的な事業運営を図ります。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。